

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金
大学院生研究 2011年度研究成果報告書

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|------|
| 研究科名 | 立教大学大学院 コミュニティ福祉学 研究科 コミュニティ福祉学 専攻 | | |
| 指導教員 | 所属・職名 | | 氏名 |
| | コミュニティ福祉学研究科・教授 | | 福山清蔵 |
| 研究課題名 | 精神科病院増床過程におけるソーシャルワーク実践史の文献研究 | | |
| 研究代表者 | 在籍研究科・専攻・学年 | | 氏名 |
| | コミュニティ福祉学研究科 コミュニティ福祉学専攻2年 | | 福富律 |
| 研究期間 | 2011年度 | | |
| 研究経費 | 100千円 | | |

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

日本における精神障害領域のソーシャルワーク実践の背景として、他の先進諸国にはみられない精神科病院の増床政策があげられる。地域ケアへの政策転換が遅かったことが長期入院を多く生み出したばかりでなく、精神科病院のソーシャルワーク実践が、地域における支援を創出する母体となってきた側面もある。

本研究では、主に実践者や研究者によって記述された文献をデータ化、分析することにより、精神科病院の増床がなされた1960~1980年代前半、及び欧米の理論が輸入、実践された前史に当たる1950年代のソーシャルワーク実践の実際を明らかにした。これらの文献を検討することから、現在に通底するある種の実践思想を考察した。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[精神科病院] [ソーシャルワーク実践] [実践思想]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

1. 研究目的

日本の精神障害領域のソーシャルワーク(以下PSWと記載)は、精神科病院における実践が基盤となって発展してきた。現在、PSWによって担われている地域の精神障害者福祉は、ほとんど精神科病院における実践が基礎となっている。第1に、精神科病院の増床施策をとってきた日本独自の他の先進諸国に見られない背景がある。現在も、精神科病院を母体とした医療法人が、地域事業所を運営している例は多い。精神科病院のPSWとして蓄積したノウハウを、法人内の事業所で直接展開するという点において、精神科病院における実践は基礎となっている。第2に、かつて精神科病院の入院医療の他に精神障害者施策がほとんどない中で、PSWが病院の実践を踏まえて地域で共同住居や日中活動の場などの社会資源を創出してきた側面がある。日本において精神障害者の地域支援を開拓した実践者のほとんどは、他領域の福祉従事者などではなく、精神科病院のPSW経験を地域で連続して展開しようとした人々であった。

本研究は、前者の制度政策上の背景や限界を踏まえた上で、後者の実践が生まれた過程や要因を解明することにより、現在に通底する実践思想を明らかにすることを目的とする。今日、精神科医療や地域支援がより明確に機能分化し、役割の明確化が行われ、PSWには支援の結果や効率が求められている。実践から新たな社会資源の創出を行ってきた過程から実践思想を明らかにすることには、独創性と社会的意義がある。

2. 研究方法

第1に、PSWを含む多職種が実践報告を多く行っている専門学会(日本病院・地域精神医学会)の機関誌に掲載された発表を対象に、分析を行う。第2に、上記を補強するために関連文献や雑誌論文の収集を行い、分析を行う。今年度は主に、後者の資料収集と分析を行った。なお、分析にあたっては、PSWに何らかの「先駆性」が内在すると仮定した上で、「先駆性」を支える実践思想を検討する。

3. 研究結果

(1) 学会機関誌発表の分析

PSW発表の整理・データ化の過程で、現代に共通する実践課題4点を明らかにすることができた。現段階で以下は、分析を探索的に検討する上で、重要な鍵になるカテゴリとなり得る仮説だと捉えている。()内は、主な発表年代である。

- ① 制度、業務外から生み出す新たな実践(1970年代半ば)
- ② 住まいの支援から生活支援の広がり(1960年代後半)
- ③ 援助者の立場・役割を問う実践(1970年代後半)
- ④ 経済面・所得保障に関するとりくみ(1960年代半ば)

同時に、前提とすべき時代制約について、①医療の補助としてのPSW、②援助職主導、③援助の枠組み、用語、という3点を実際のPSW発表から明らかにすることができた。

(2) 関連専門雑誌の検討

今年度収集した資料の分析はまだ途上であるが、その一部として精神医学を代表する雑誌「精神医学」におけるPSWについての記述を検討した。結果の要点は、以下のとおりである。

- ① 1959年の創刊号に医師による「ケースワーク」の実践報告がある。
- ② 1960年代、PSWは、主に医学研究の共同研究者として登場する。

研究成果の概要 つづき

- ③ 1967年、PSWのあり方に関する医師、看護師の報告が掲載された。本論文が医療者を含めた実践現場に影響を与えたことが推測される。
- ④ 1970年代後半「在宅精神医療」の特集では、医学の枠を広げた活動が、PSWによって報告される。
- ⑤ 1980年代以降、PSWによる論文は減少して、狭義の医学に関する論文、特集が増加する。

(3) 「先駆性」を生み出した実践思想につながるポイント

資料の収集・整理、及び学会・研究会発表における議論から、現段階で実践思想と関連すると考えられる焦点を3点抽出することができた。

- ① 「境界」から何かを生み出す実践
- ② 「展開づくり」を重視(対立の回避、柔軟かく応じる・かわす)
- ③ グループの相互作用やコミュニティを生かした支援

この他、PSWの実践思想につながると思われる焦点が複数浮かび上がっており、各々の位相を明らかにした上で、より詳細な実証分析とする必要がある。

4. 小括

本研究では、当初意図していた時期以前の資料を収集・整理することによって、研究の周囲を補強する材料が揃い、文脈を踏まえてより説得力をもった分析を行う視角を得ることができた。また、口頭発表、執筆の過程を通じた議論を通じて、実践思想につながるポイントが明らかになった。ただ、収集した資料の整理・分析は一部にとどまっており、全体の考察との関連づけ、実証分析も今後の課題となっている。

精神科病院の増床という施策、高度経済成長期前後の急激な社会背景の中で、PSWは劣悪な状況におかれた入院者の現実を目の当たりにして、個々の事例を通じた社会資源の創出を多く行った。この現実の生々しさから遊離せずに、さらに資料に基づいた分析を進める計画である。

最後に、本研究による資料収集から窺えるが、研究結果として上記に反映できなかった課題を2点あげる。第1は、医師の思想や実践、リーダーシップとPSWの関係である。単に医療の補助・代替という文脈ではない、医療とPSWの相補関係が、資料から垣間見える。第2に、ごく初期における精神科病院へのPSWの導入過程である。これは、終戦後の医療社会事業の導入についての歴史研究として俯瞰しなければ、正確な理解は困難であることが、収集資料からは推測された。